



岩手県議会議員

高橋

やすゆき

県政
レポート
Vol.01

おもな内容

- 1 ページ ごあいさつ・プロフィール
- 2 ページ 9月定例会（一般質問）
- 3 ページ 9月定例会（決算特別委員会）
12月定例会・2月定例会（予算特別委員会）
台風19号被害調査と要望活動
県内33市町村要望調査活動 等
- 4 ページ 常任委員会・特別委員会県内調査
県議会議員研修
エネルギー議員連盟県外視察
県民と県議会の意見交換 等

高橋やすゆきプロフィール

昭和36年11月 北上市和賀町に生まれる
 昭和55年：黒沢尻北高等学校卒業
 昭和59年：岩手大学工学部卒業

主な経歴

北上市（和賀町）消防団（S61-H23）
 北上市（和賀町）体育指導員（H1-H9）
 北上市陸上競技協会理事（H7-H31）
 北上青年会議所理事長（H11）
 いわてNPO-NETサポート理事（H12-H23）
 北上市教育委員（H12-H16）
 岩崎学童保育所運営委員会会長（H20-H27）
 北上市PTA連合会会長（H21）
 岩手県自動車整備振興会理事（H27-H28）
 北上市議会議員（H16～R1(4期)H28～R1.6議長）

現在

北上商工会議所議員（H18～）
 株式会社高征車輛 専務取締役・農業・簡易郵便局

令和1年9月 岩手県議会議員初当選

常任委員会：文教常任委員会
 特別委員会：環境問題・地球温暖化対策調査特別委員会（副委員長）
 県政調査会（幹事）
 会 派：自民党（組織運動本部長）

「はろーわし」～県議会活動半年を振り返り～

皆様のご支援のもとに、昨年9月の県議会議員に初当選させていただき、本格的に岩手県議会議員としての活動がスタートし、約半年が経過いたしました。

初定例会となる9月定例会では、さっそく一般質問の機会を頂きました。10月13日には、台風19号が県北・沿岸部に大きな被害をもたらしました。会期中でしたが、休会日に自民党派として被災地視察し、県知事へ要望するともに、国に対して関係省庁及び自民党本部に災害対応についての要望活動をいたしました。また、9月議会と12月議会の間の閉会中には、自民党派として延べ六日間かけて県内33市町村を廻り要望調査をし、課題を整理して県知事に要望するとともに12月定例会閉会後の12月12日に、国に対しての要望をいたしました。

12月定例会は、11月27日から12月11日まで開催され、条例議案12件の他、台風被害対策に対応した補正予算等を審議しました。

令和2年の新年を迎えてからは、常任委員会や特別委員会、議員連盟による視察調査に参加しました。2月14日から令和2年度当初予算等を審議する2月定例会が40日間の会期で開催され、あつという間の半年間でした。

「地域（まち）の笑顔で輝く岩手!!」選挙で掲げた政策目標と活動方針のもとに、市議会議員としての経験を活かし、県と市町村をつなぐとともに国への要望も行いながら、輝く岩手実現に向けて行動してまいります。皆様のご指導・ご支援をよろしく願っています。



Web サイト

皆様の声を反映させていただきますので、まちづくりや県政に対する要望などお気軽にお寄せください。

高橋やすゆきホームページ：http://www.takahashi-yasuyuki.com/ E-mail：yasuyuki.office@gmail.com

連絡先：〒024-0322 岩手県北上市和賀町岩崎新田旭ヶ丘 491-3

(株式会社 高征車輛 内 TEL:0197-73-7254 FAX:0197-73-7260)



9月定例会

9月定例会は、10月8日から11月11日までの35日間の会期で開催されました。平成30年度の一般会計他15件の決算及び令和元年度一般会計補正予算（第1号）など46件の議案を審査しました。また、初めての一般質問は、県議会議員に立候補した際のマニフェストに関連して8項目を質問いたしました。

一般質問

●岩手県人口ビジョンについて

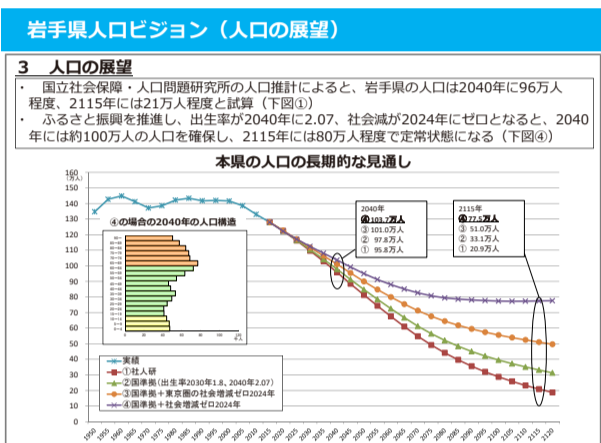
1. 岩手県における将来人口の目標設定の考えおよび、県の目標と市町村の目標との関係は。また、目標達成に向けた各市町村と連携は。
2. 2020年社会減ゼロの目標達成の見込みと、出生率向上への取り組みは。

【答弁】

1. 岩手県の将来人口は、平成27年度に策定した「岩手県人口ビジョン」において、2040年に100万人程度の人口を確保することを展望した。そして、市町村は、それぞれの市町村で独自に推計を行っている。また、県の人口ビジョンの策定に当たっては、市町村と意見交換を重ねて策定した。国の地方創

生推進交付金等を等を活用しつつ、住民に身近な市町村の総合戦略に掲げる施策と県の施策が、効果的・相乗的に発揮されるよう、県と市町村の連携を強化していく。

2. 国でも2020年に「社会減ゼロ」の目標を立てているが、東京圏への流入は拡大している状況でもあり、また出生率の関係では、国では2030年に出生率1・80、2040年に2・07としており、この目標の妥当性については、自治体としても言うべきことは言うていく必要がある。一方で、岩手県の特性を分析し、市町村との連携を図りながらしっかりと対応していきたい。



国のまち・ひと・しごと創生基本方針2019を踏まえ、県の見直しが行われ、社会減ゼロの設定が2020年から2024年へと変更。

●中学校の部活動のあり方について

県の「部活動の在り方に関する方針」を受けて、生徒を中心に自主的・主体的な活動ができるスポーツ・文化活動の環境を考え、学校と地域、関係組織や団体が一体となって、抜本的な中学校の部活動の在り方を検討すべきではないか。また、検討にあたっては、教育委員会だけではなく、知事部局と一緒に取り組む必要があるのではないか。

【答弁】

中学生の部活動の在り方については、生徒数の減少等により、学校単位での部活動運営が難しくなってい

る。このような状況を踏まえ、望ましい部活動の在り方を検討する必要があると捉えている。研究を進めるにあたり、今般プロジェクトチームを立ち上げた。検討にあたっては学校関係だけではなく、関係団体の他、文化スポーツ部からもプロジェクトチームに入っていたいただき研究を進め取組んでいく。



●地域特性を生かした農山漁村振興について

農山漁村を支える人材の育成と地域活動等の支援、農山漁村の地域活力を高めていくための方策は。

●市町村格差のない医療・福祉体制について

子どもの医療費助成制度について、市町村の格差をなくし、県の助成対象を高等学校までに拡大すべきでは。また、給付方法に関しては、子どもの貧困調査の結果も考慮し、窓口負担のない、いわゆる現物給付について、少なくとも義務教育期間である中学校までの拡大を早急に実施すべき。

●LCC誘致について

岩手県としてのこれからの取組や政府に対する働きかけをどのように進めるのか。
LCC推進局の本年度の具体的な取組（事業）は何か。



2019年3月28日トンネル開通式には北上市議会議長として出席しました。

●若者・女性が活躍する場の創出について

新卒をはじめとした若者や女性などの求職者のニーズと、求人する企業のニーズとの間にミスマッチがあるのではないか。また、若者、女性が活躍できる職場を増やす取組は。

●介護・保育人材の確保策について

県内の保育士養成施設卒業業者の30%以上が県外の施設へ就職している。県内就職率向上に向けた取組は。

介護人材の不足が深刻な状況の中で、介護福祉士を目指す生徒が減少している。介護福祉士の魅力の向上や処遇改善などの取組を進めるとともに、外国人の人材採用の支援策も必要ではないか。

●社会インフラの整備について

自動車産業や半導体関連産業が集積する北上市や金ヶ崎町から釜石港への物流の効率化のため、北上・金ヶ崎インターチェンジから（仮称）新国見橋）くろ内国道107号く江刺田瀬インターチェンジまでのバイパスルートの設置を検討すべきではないか。

決算特別委員会

決算特別委員会は、10月28日から11月8日まで開催され、決算の審査が行われました。審査においては、施策の成果に関して質問しました。

- ① 学童保育所の指導員研修及び認定研修に関し、修了者数が目標に届かなかった要因と今後の課題は。
- ② 介護施設整備事業の目標未達成の要因及び人材確保の成果が出ていないことへの総括は。
- ③ 新規就農者と岩手ニューファーマー支援事業に関して、目標未達成の分析と、中山間地域等の後継者難地域における新規就農者の取り組み状況は。
- ④ 畜産振興において、子牛の供給が追いつかず高値が続いている。繁殖農家への支援策等政策の見直しは。
- ⑤ 岩手の次世代林業・木材産業育成対策事業に関して、林業技能者数は目標達成とあるが、実際に県内事業者の人材ニーズは満たされているか。



12月定例会

12月定例会は、11月27日から12月11日まで開催されました。令和元年度岩手県一般会計補正予算（第4号、第5号）や、岩手県部局等設置条例の一部を改正する条例など、知事から提出された30件の議案を審議しました。

台風19号災害に対応する補正予算は、自民党会派として要望した事項が大きく反映されておりました。

2月定例会

2月定例会は、2月14日から3月24日までの40日間の会期で開催され、条例議案や一般議案の他に令和2年度当初予算の他、令和元年度の補正予算などを審議しました。

今定例会では、知事の県政方針に関する質問の他に、新型コロナウイルスへの対応に関する質問が多く出されました。3月4日から18日まで予算特別委員会を開催し、当初予算を審議しました。

- ① 産学官連携地域産業創生推進費の事業目的及び人材確保・育成のための他の事業との関連は。
- ② 県外に進学した大学生に対する県内就職の向上に向けた取り組みは。また、高校生に向けたアプローチと県内の中学校・高等学校に向けた取り組みは。
- ③ 女性の県内就職促進のための事業内容と、今後の取り組みは。
- ④ 三陸・北いわて地域活性化推進積立金の活用方法およびスキームは。また、関係市町村との連携は。
- ⑤ 平成10年4月に「社会貢献活動の支援に関する条例」が施行されてから約20年が経過した。これまでの取り組みの総括と、今後の展開は。

東日本大震災津波復興特別委員会を設置

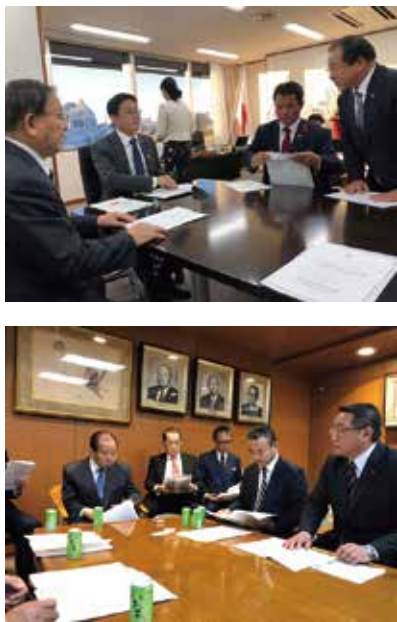
9月26日、改選前に引き続き、議長を除く全議員で構成する東日本大震災津波復興特別委員会が設置され、11月15日に東日本大震災津波の伝承施設の現状などを調査するための現地調査を行い、東日本大震災津波伝承館（陸前高田市）、いのちをつなぐ未来館（釜石市）を視察し、質疑・意見交換を行いました。



台風19号被害調査と要望活動



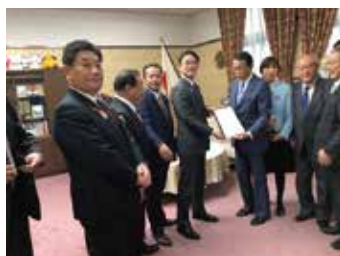
昨年の台風19号は、県北・沿岸地域に大きな被害をもたらしました。岩手県議会自民党会派としては、10月22日に2班体制で被害状況を調査、11月6日には知事へ、11月12日には、藤原崇衆議院議員をはじめ県出身の国会議員を通して、関係省庁と自民党本部に早期復旧に向けた支援策、特に三陸鉄道の復旧に関して国からの支援スキームを具体的に要望してきました。



県内33市町村要望調査活動

岩手県議会自民党会派として、11月13日から延べ6日間かけて岩手県内33市町村の要望調査を行いました。限られた時間・スケジュールの中で、この地町村でも説明に力が入り、時間が足りない状況でした。

要望を整理して、12月5日には知事に対して、12月12日には、国の関係省庁及び自民党本部へ要望してきました。

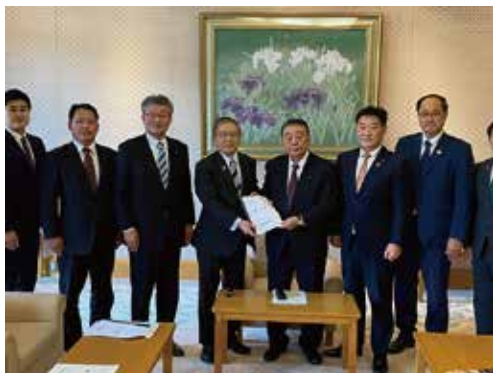


鈴木俊一総務会長、藤原崇政務官、高橋ひなこ衆議院議員にも同行いただきました



ILC 誘致の実現に向け要望

2月19日、岩手県議会自民党会派として、大島衆議院議長へ ILC の要望の機会をいただき、議長公邸を訪問致しました。



文教常任委員会県内調査

12月18日、文教常任委員会の県内調査で、「大槌高校魅力化プロジェクト」と遠野市の「先導的共生社会ホストタウン」について調査しました。

高校存続は、人口減少著しい岩手において、多くの自治体の共通の重要課題です。大槌の取り組みは、解決に向けた沢山のヒントと共に課題も得ることができました。

遠野市では、パラ種目ブラインドサッカー・ブラジルチームのホストタウン誘致について調査しました。



環境問題・地球温暖化対策調査特別委員会

県政に関する特定課題の調査のため、四つの特別委員会が設置され、「環境問題・地球温暖化対策調査特別委員会」に所属し、副委員長に就任しました。

県内調査

1月28日、『鶏糞を燃料とするバイオマス発電事業について』二戸市の株式会社十文字チキンカンパニーを、『再生可能エネルギーの地産地消について』久慈市の久慈地域エネルギー株式会社を訪問しました。

十文字チキンカンパニーでは、ブロイラー業から発生する鶏糞をバイオマス発電に利用したもので、固定価格買い取り制度により事業化が可能になりました。



久慈エネルギー株式会社は、久慈市と久慈市内に本社を置く民間企業5社の「地域密着型自治体新電力」。

電気の小売事業を通じ、地域内経済循環による持続可能な地域経済基盤をつくり、地域経済の自立と雇用の拡大などを目的に設立されました。



エネルギー議連県外視察

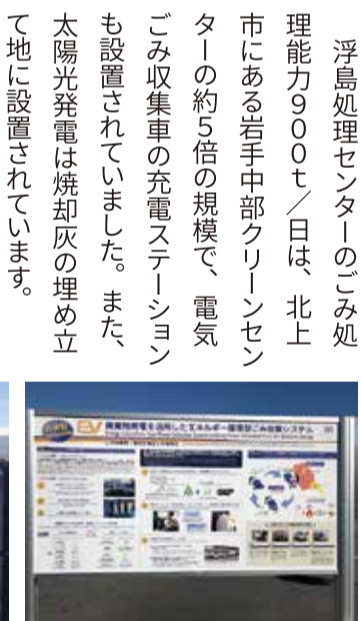
2月4日・5日と「エネルギーを考える議員連盟」の「エネルギー施設の視察」に参加。初日は、電源開発(株)の磯子火力発電所と川崎マリエン、2日目は浮島処理センターと川崎キングスカイフロントを視察しました。



磯子火力発電所は、世界最高効率の発電所で、CO2排出量では17%削減出来ている。しかし、1日約1万tの石炭を必要とする事から、環境問題とエネルギー政策両立の難しさを感じます。



川崎マリエンの「再生可能エネルギーと水素を用いた自立型エネルギー供給システム」は、太陽光発電で水から水素を作り、この水素を貯めて燃料電池で発電するシステム。出力の小さい、非常用の実証実験施設です。



浮島処理センターのごみ処理能力900t/日は、北上市にある若手中部クリーンセンターの約5倍の規模で、電気ごみ収集車の充電ステーションも設置されていました。また、太陽光発電は焼却灰の埋め立て地に設置されています。



川崎キングスカイフロントの「低炭素水素のサプライチェーン」は、廃プラがほぼ100%資源化するすこいシステムでした。ただ問題はコスト、実証実験を経て、更なる開発に期待します。

県民と県議会との意見交換

県民と議会との意見交換が、12月4日に盛岡市、12月13日に北上市で開催され、北上会場はメンバーとして盛岡会場ではオブザーバーで参加しました。

盛岡会場では県内の大学生7人が参加し、「若者の県内就職と就職後の展望」をテーマに意見交換。

北上会場ではさまざまな分野で活躍する女性9人が参加し、「女性の視点を生かした産業振興及び女性活躍支援」をテーマに、女性が活躍できる環境づくりや女性が参加しやすい地域活動など話し合われました。



冬休み!親子県議会教室開催

12月26日(木)に県内の小学校、義務教育学校に通う5年生、6年生を対象とした親子県議会教室が開催され、オブザーバー参加しました。当日は北上市の参加も含めて、20組41名の親子に参加いただきました。



11月14日、総務省主催の地方議会活性化シンポジウムに参加。テーマは多様な「議員のなり手の確保と、住民に身近で頼られる議会の実現」。



岩手県議会の議員派遣により、2つの研修会に参加しました。